



有くん火口を見学する参加者たち

4月20日の金比羅火口災害遺構散策路のゲートオープンに先立ち

「金比羅プレオープン散策」（洞爺湖ビジターセンター主催）が4月16日、12名が参加して行われ、約3^{キロ}の行程を春の息吹を感じながら歩きました。

洞爺湖ビジターセンター職員の川瀬康平さんのガイドで、有くん、珠ちゃん火口まで登り、復路は2000年噴火遺構公園を見学。

伊達市から参加した夫妻は「熱泥流で使用できなくなった公共施設の傷跡が生々しかった。噴火の威力を知った」と驚きを隠せない様子でした。

春の金比羅山を散策 噴火遺構見学

春の特別展開催 武田志麻版木画展

4月1日にオープンを迎えた洞爺湖芸術館で、同22日春の特別展Ⅰ「武田志麻版木画展」のオープニングセレモニーが行われ、友の会会員や行政関係者など16人が参加しました。

式典では、三島館長が作家の紹介を行い「ゆっくりと鑑賞してください」とあいさつ。続いて武田志麻さんが「小さいころ遊びに来た思い出の地で、展覧会ができたことを感謝します」とお礼の言葉を述べました。参加者らは、展示されている20点の作品の1点1点の



テープカットを行う
左から三島館長、武田さん、森副町長

説明を武田さんから受け、版木画独特の作風に感銘していました。5月21日まで開催。

春の観光シーズン到来 まちづくり観光協会湖畔清掃

本格的な春の観光シーズンに向けて、NPO法人洞爺まちづくり観光協会（岡崎訓会長）は22日、とうや水の駅から藤棚と浮見堂から曙公園までの間の清掃活動を行いました。

「観光客に気持ち良く洞爺湖畔を使用してもらいたい」と5年ほど前から毎年実施しています。

この日は同協会会員ら13人が参加。午前9時に水の駅に集合し、小雨が降る肌寒い中、2班に分かれて清掃場所へ移動。小枝やガラス片、たばこの吸い殻などを一つひとつ丁寧に拾い集め、きれいにしていました。

翌日23日には、町内全域で一斉に清掃活動が行われ、



水の駅周辺の砂浜を清掃する会員たち

観光客を迎え入れる準備を整えました。



真剣な表情でクリップ作りをする親子

4月22日、23日の両日、洞爺財田自然体験ハウスで、4月の自然

ふれあい行事「森の文房具」が行われました。参加者は両日合わせて9名。ヤナギの木を使って、マグネットやクリップ、鉛筆を作りあげました。

ヤナギの木は、この時期しかきれいに皮がむけないため、春を感じる工作にうってつけの樹木。参加者らは、最初に同体験ハウス内にあるヤナギの木を間伐し皮をむく体験を行いました。引き続き、事前に乾燥しておいたヤナギの木を使い、クラフトナイフで削ったり、絵の具で装飾しながら、思い思いの文房具を完成させました。

春を感じるヤナギの木の工作会 洞爺財田自然体験ハウス4月行事

